



日本で最初に新型コロナウイルス（以下、新型コロナ）の感染者が確認されたのが、1月16日。今年には新型コロナ一色の一年間でした。

新型コロナは、男女共同参画の点でも様々な影響を及ぼしました。そこで今回は、「男女共同参画と新型コロナ」について取り上げます。

と、その前に、「男女共同参画ってなに？」とされている方もいらっしゃると思います。まずは、男女共同参画について簡単に確認しましょう。

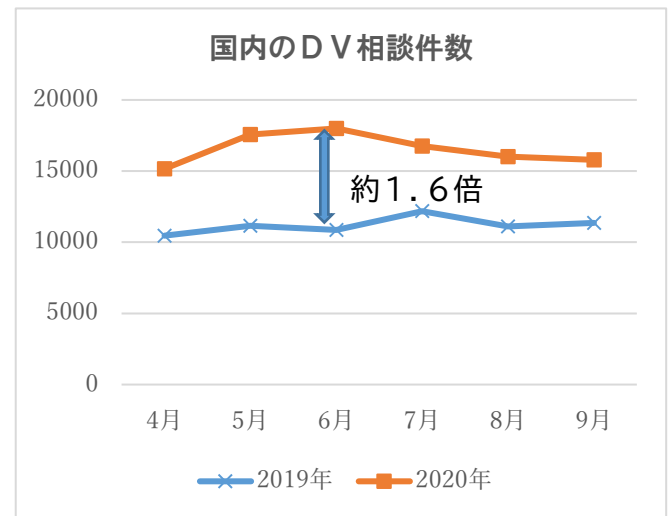
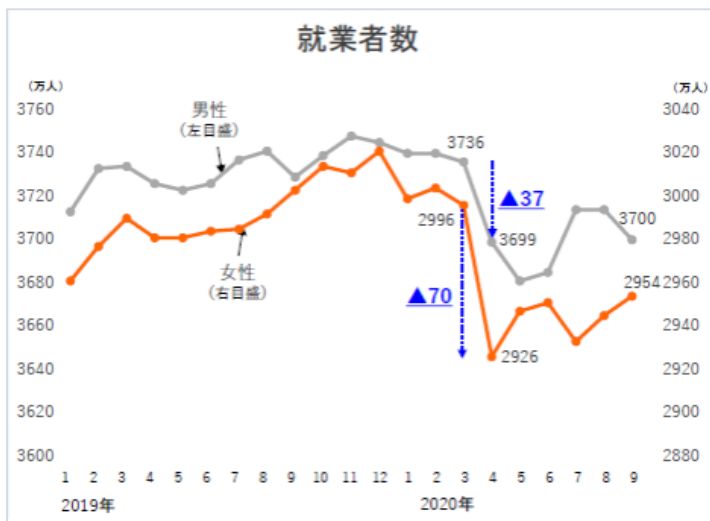


男女共同参画社会ってなに??

「**男性も女性も、性別にかかわらず、本人の意欲に応じて、あらゆる分野で活躍できる社会**」のことを、男女共同参画社会と言います。一人ひとりが豊かな生活をするために必要なことです。

今更、「男だからとか女だからなんて、いつの時代の話?」と思う方もいるかもしれませんが、残念ながら今の時代でも男女の格差や、性別ならではの生きづらさは残っています。

新型コロナはこれまで潜在的に存在していた性差に要因のある問題をより浮かび上がらせたと言えることができそうです。新型コロナで特に影響が出ている次の3つの問題を中心に考えてみましょう。（データはすべて内閣府男女共同参画局ホームページから引用しています）



<就業者数>

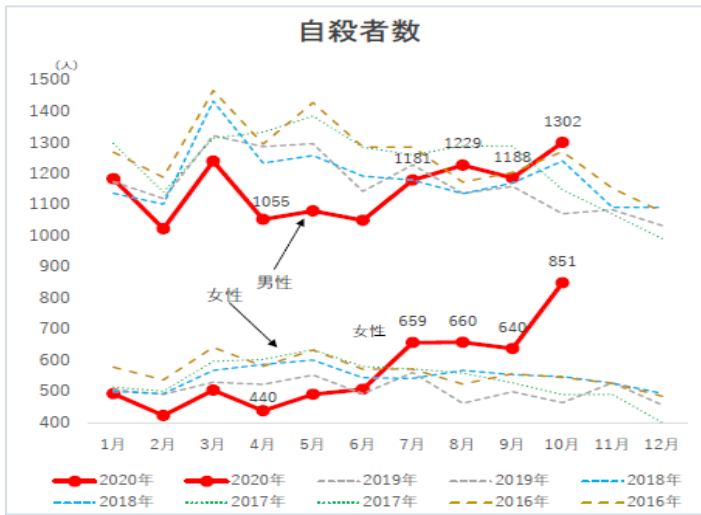
男女ともに、今年の4月に大幅に減少しました（男性：37万人減、女性：70万人減）。特に女性の減少幅は、男性の倍近くになっています。

女性は非正規雇用者が多く、非正規雇用者が不況時の調整弁にされやすかったり、コロナ禍で家事・育児・介護などのケアワークが増えたりしたことで、結果的に女性の就労者に影響が出たと推察されます。

<DV相談件数> ※DV=配偶者・恋人間の暴力

国内のDVに関する相談は、今年の5・6月に、前年同月比で約1.6倍に増加しました。世界的にみても、新型コロナによりDVが増加しています。

国でPRに力を入れ認知が広がったことも件数が増加した一因ですが、外出制限下ではなかなか相談ができず、制限が緩和された時期にようやく相談できるようになったことが増加の理由と推察されます。



<自殺者数>

自殺者数は、6月頃から前年の人数を上回っています。特に10月は女性の自殺者数が851人と、昨年の8割増となり、急激に悪化しています。また、8月は学生の自殺が49人と、過去約10年で最も多くなりました。



今月知っておきたい言葉

ワンオペ育児

何らかの理由により、一人で家事・育児・仕事をすべてこなさなければならないことを言う。

「ワンオペ」は「ワンオペレーション (one operation)」の略で、コンビニなどでの一人勤務の状態を表し、一人ですべての仕事をこなすことを意味する。そこから転じて、配偶者や親族等から家事や育児に支援を得られない状態を表す。

2017年ユーキャンの新語流行語大賞にもノミネートされた。



パレア松本には図書コーナーがあり、どなたでも自由に本を読んだり、借りたりすることができます。今月は、女性・男性にとられるジェンダーバイアスに注目し、その中から2冊をご紹介します。



『親になったの私だけ! ?』 (ゆむい著、KADOKAWA、2020年)
 「なんで同じ親なのに、夫の生活は何一つ変わらなくて私だけこんなに違うの?」この一言に日本社会の抱えるジェンダーバイアスが詰まっています。きっと皆さんも読みながら何度もうなずけるのでは? マンガだからこそ伝わるこの切実さを皆さんにも是非感じていただきたいです。

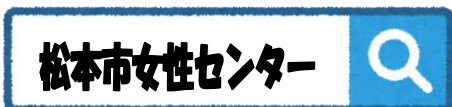
『これからの男の子たちへ』(太田啓子、大月書店、2020年)

著者は2人の男の子を育てる弁護士。「男の子だから」「女の子だから」というジェンダーバイアスを最初に否定した上で、それでも「男の子の育て方は女の子の育て方とは違う」と、はっきり伝えています。その真意とは? いつの間にかとらわれている価値観から自由になれる一冊です。



この通信は、松本市公式ホームページでも見ることができます

Facebook もやっています!



<編集・発行>

松本市人権・男女共生課 (松本市女性センター)
 〒390-0811
 松本市中央 1-18-1 Mウイング3階
 TEL 0263-39-1105 /FAX 0263-37-1153